

「アフリカ健康構想」にむけて アフリカ開発協会の構想

令和2年2月14日

一般社団法人アフリカ開発協会 (AFRECO)

これまでの経緯・・・

- 在京アフリカ大使からの医療支援要請
 1. 救急車
 2. 病院の設立、改修
 3. 医療機器の整備
- アフリカで活躍する日本人医師によるアフリカでの活動に対する支援要請
 1. アフリカで活動するための資金不足
 2. アフリカの医療を支えるための人材不足
 3. アフリカでの医療機器、薬品の不足
 4. 後継者の不足

これまでの経緯・・・

- 2016年 TICAD6「アフリカで活躍する医療従事者のネットワーク作り」主催
- 2017年1月 「第2回 アフリカで活躍する日本人医師・医学研究者の連絡会議」
これ以後、半年ごとにTICAD7まで連絡会議を開催。
- 2017年春 内閣官房と意見交換を始める。
以来、内閣官房、外務省、JICAと「アフリカ健康構想案」について頻繁に協議。
- 2017年11月 和泉内閣総理大臣補佐官と会合。以降、数回にわたり意見交換。
- 2018年8月 内閣官房、外務省、JICAとともに、和泉補佐官を往訪。
TICAD7でアフリカ健康構想の推進を提示すべく、協力していくことで合意。
その後、最初のMOU締結国候補選びなど内容を詰めるべく数回会合をもつ。
- 2019年6月 内閣官房が「アフリカ健康構想に向けた基本方針」を発表。
- 2019年8月 政府がTICAD7でUHC拡大とアフリカ健康構想の推進を表明。

連絡会議の Mission と Vision

アフリカの人々の健康と幸福に資することを使命とし

アフリカ大陸に暮らす人々のために医療分野で働く日本人を支援して、
必要となるネットワークを作る

目的

アフリカの人々に役立つ医療サービス・システムを構築する。

アフリカにおける健康とヘルスケアの発展に貢献する。

日本のヘルスケア産業のアフリカへの進出を支援する。

UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)と歩調を合わせる

連絡会議で浮かび上がった 6つの柱

1. メディカル・エンジニア（ME）の育成
2. 巡回診療の支援と展開
3. 医療産業（医療機器・医薬品など）の展開
4. 環境整備（先進医療、病院経営）の支援
5. 感染症などに対する緊急支援
6. 医療分野での法規制（医薬品製造の現状など）の把握と支援

タンザニアのケース

保健省・教育省

首都ドドマを医療ハブに発展させたい考え。並行して、国民皆保険を目指す。
ドドマ大学のハード面や職員の給与を支払う代わりに、大学がドドマ州コミュニティへ貢献するよう依頼。

ドドマ大学
(UDOM)

現状： ドドマ州内で無料の**巡回診療**を展開。しかしながら、診療車がなく、医療器材、医薬品をほとんど持たずに巡回している。
日本側対応： 西村医科器械株式会社による検診車の導入をJICAのスキームを用いて現在調査中。

X
西村医科器械
東亜大学
AFRECO

現状： 附属病院内で、医療機器、電気機器のメンテナンスを行えない。**バイオ・メディカル・エンジニア**が必要と考え、新しく学部を開講する予定。今年中に申請し、早ければ今年秋、遅くとも3年後までに開講。
日本側対応： 臨床工学国際推進財団がカリキュラム作成指導。日本の臨床検査技師の考え方を説明したところ、臨床検査技師も育てる方向でカリキュラム作りを進めている。

上記、3団体が
UDOMとMOUを
結んでいる

現状： 富裕層は健康診断や医療受診のために海外へ渡航。**医療技術、環境を充実**させて、国内で診断、診療ができるようになれば、病院や大学の収入となり、その結果巡回診療をますます充実することができる。
日本側対応： 徳洲会が医師のトレーニングや腎臓移植などの先端医療を指導。また、今年2月に完成予定の病院附属画像診断所に、日本の医療機器を導入する方向で検討中。

現状： 医療を支える**産業**がない。
日本側対応： (株)ジー・キューブが大学とJVでRO水を作ることを検討中。3月に水質調査予定。

ケニアのケース

保健省

ケニアの医療充実を図る必要があるとわかりつつも、病院を建設してマネジメントが出来ず簡単に病院を国に寄付するケースが頻発し、医療のみならず、管理・運営の部門での人在育成が重要との見解。(2019年春)

ジョモ・ケニヤッタ
農工大学
(JKUAT)

TICAD6時、NCDs(非感染症疾患)の大学附属専門病院建設の要望があった。

現状: 2019年 医学部第一期生卒業。病院建設用敷地確保済み。NCDsに特化したメディカル・インスティテュートを建設すべく、AFRECOとMOUを結んだ。

日本側対応: 医者、看護師、MEに限らず病院経営という意味でもまずは**人材育成**が必要と考え、武居医師がナイロビでクリニック(Grand Forest Japan)を開業していることから、JKUATへの協力、指導、**巡回診療**の経験値を要請。現在様々な指導を行っていただいている。また、帝京大学とは公衆衛生学の観点を切り口に提携校となるよう調整中。

X

Grand Forest Japan、
AFRECO
MOU締結

また、帝京大学が
MOUを
結ぶべく調整中。

チュニジアのケース

在京チュニジア大使館とAFRECOは、両国が協力・協働すれば、言語の壁で日本が人材育成などを行うことが比較的苦手な国々へも支援をできるのではないかと話し合ってきた。

チュニス・エル・マ
ナー大学附属
医療技術高等機関
(ISTMT)

現状: MEを育てるプログラム、学校はある。補聴器の使用がまだアフリカには広がっていないので、日本から補聴器とその技術を取り込むことも必要。

日本側対応: 日本の医療機器を導入してもらい、日本の医療機器を使えるチュニジアのMEを育て、チュニジアからブルキナ・ファソなど西側フランス語圏へ教師を送る、あるいはチュニジアへ留学生を送るというプログラムを作っていくことを提案。

これから具体化。

X

AFRECO
MOU締結

その他の国々

国	主体	内容
スーダン	熊本大学 X ロシナンテス X ハルツーム大学	
	ロシナンテス in 北コルドファン地区	巡回診療、医療・周辺設備の提供 進行中
ザンビア	ORMZ	巡回診療。ヘルスポスト建設 検討中
	ロシナンテス	巡回診療、医療・周辺設備の提供 進行中
ガーナ	野口研 X AFRECO	検査機器の充実 検討中
ウガンダ	保健省 X NTTデータ	医療保険システム構築 検討中
アンゴラ	国立衛生研究所	ワクチン製造 検討中
コンゴ民	キノワーズ・ホスピタル X 日本災害医療ロジスティクス協会	エボラをはじめとする感染症の緊急対応病院の拡充 進行中

その他の国々

国	主体	内容
リベリア	保健省 X 日本災害医療ロジスティックス協会	エボラをはじめとする感染症の緊急対応病院の拡充 進行中
ルワンダ	保健省 X YAMAHA、西村医科器械	巡回診療船 検討中